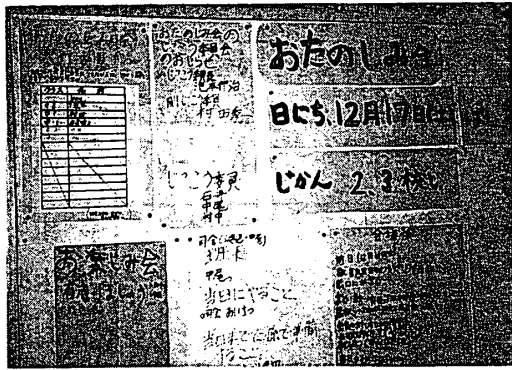


## 【6】コミュニケーションに視点をあてた実践にみられた成果

### 1 実行委員会が計画立案・運営をした「お楽しみ会」



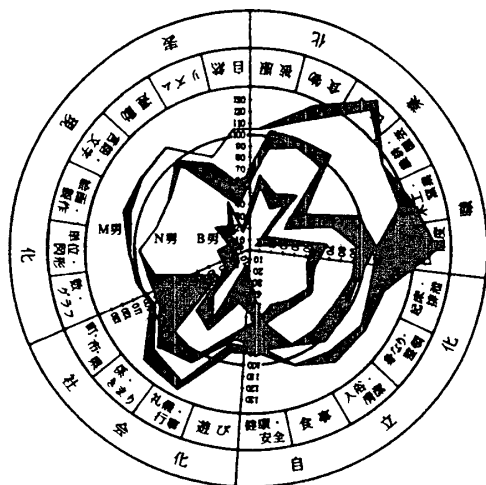
「お楽しみ会」の計画

2学期の最後の単元「お楽しみ会」を生徒に投げ出してみた。すべてを自分たちで運営するのは初めての経験だったが、I男を委員長とする実行委員会の6名が協力して他をリードし、話し合いと準備を進めていった。それまでの学習を通して少しずつ育ってきた聞く・話す・話し合うというコミュニケーションの基礎的な力がこの単元に生かされたものである。まだ側面的な援助が必要だが、こういう学習の場を今後も与えていきたい。

### 2 学級担任が捉えた生徒の変容しつつある姿（3年生の例）

Z男	自分で意思決定せざるを得ない状況に追い込むことにより、「はい」「やります」等の返事が、以前より早く言えるようになった。
O男	考えて発表しようとする気持ちが持て出した。的をえた意見発表がふえてきた。
B男	つぶやきや自分からの話しかけがふえてきた。
I男	友だちを気づかうあまり発言が少なかったが、自分の考えを表に出し、注意したり要望を言うようになった。
C男	1日のできごとで心に残ったことを思い出して、母親に話すことができた。
F男	要求のことばが、自発的に使える場面がふえてきた。
E男	集中力や落ち着きが少しずつできてきた。自分の気持ちが抑え切れなくなると、教師に助けを求めて解決しようとした。指示を最後まで聞かないため、見当違いな言動をとることもある。
R子	リーダーとしての自覚を持って、意見や気持ちを述べることも多くみられた。
M子	気分にもらがあるが、「相手の気持ちを考えて」と声かけすると、ことばを選んで話そうとした。

### 3 段階別教育内容表Ⅳ段階到達度評価にみる変容



□ 平成4年5月（B男） 平成5年5月（M男、N男）  
■ 平成6年10月

段階別教育内容表Ⅳ段階到達度評価

左図は、生徒の中から発達や障害に差のある3名を選び、その変容の様子を捉えたものである。発達の遅れの著しいB男は、特に落ち込みのみられた表現化に加え、社会化の拡がりも顕著である。自閉症のN男は社会化で大きく力をつけ、Ⅳ段階にはほぼトータルに到達している。構音障害を持つM男は、表現化での変容はほとんど認められないが、他の領域でⅤ段階に着実に拡がっている。

このようにプロフィールの拡がり方は個々によって異なるが、中学部のどの生徒にもそれなりの変容が認められる。3年間の実践の成果が、この変容を導き出していると捉えたい。